

8 課

5月22日

契約の律法



安息日午後 5月15日

暗唱聖句

あなたは知らねばならない。あなたの神、主が神であり、信頼すべき神であることを。この方は、御自分を愛し、その戒めを守る者には千代にわたって契約を守り、慈しみを注がれるが、(申命記7:9、新共同訳)

それゆえあなたは知らなければならない。あなたの神、主は神にましまし、真実の神にましまして、彼を愛し、その命令を守る者には、契約を守り、恵みを施して千代に及び、(申命記7:9、口語訳)

今週の聖句

出エジプト記19:6、イザヤ56:7、ヘブライ2:9、申命記4:13、申命記10:13、アモス3:3、創世記18:19

今週のテーマ

詩編23編で、神が私たちを導き入れたいとお望みになるところを示す最も重要な表現として、ダビデは3節に「主は御名にふさわしく／わたしを**正しい道**に導かれる」と宣言しています(強調付加)。ご自身の道徳的正しさのゆえに、神は私たちを捨て置かれず、私たちの人生に、安全な道を備えてくださいます。

安全な「正しい道」とは何でしょうか。他の詩編記者は、願いの祈りの中で、この問いに次のように答えています。「**あなたの戒めに従う道**にお導きください。わたしはその道を愛しています」(詩119:35、強調付加)。「あなたの戒めはことごとく正しいのですから」(同172節)。神の律法は、人間という危険な沼地を行くための安全で確かな道なのです。

今週、私たちはなぜシナイでの契約に律法が重要かについて学びます。

今週のポイント

イスラエルの選びは何を意味していましたか。彼らの選びと私たちの選びは、どのように似ていますか。律法は契約において、どれほど重要でしょうか。契約は無条件に与えられるものですか。契約関係において服従は、なぜこれほど不可欠な部分を占めるのでしょうか。

ユダヤ人は伝統的に、初めに他の諸民族が拒んだために、神はイスラエルと契約を結ばれたのだと教えてきました。この考えに聖書の根拠はありませんが、理由は何であれ、神がイスラエル民族を選ばれたのであって、それは彼らが大いなる誉れと特権を与えるに価する者であったからではないということです。彼ら自身には、神の愛を受け、神の民として選ばれるに価するなんの功績もなかったのです。彼らは数において小さく、捕囚の民であり、政治的にも軍事的にも弱小の民でした。加えて、文化や宗教においても混じり合い、特徴に欠けた、影響力のない民でした。ですから、このイスラエルの選びはまったく、神の愛と恵みの神秘というほかないのです。

問1 この選びは、神学的に誤った理解の可能性をはらんでいますので注意が必要です。何のために神はイスラエルをお選びになったのでしょうか。この問いに答えるために、下の聖句が助けとなります。

出エジプト記 19:6

イザヤ 56:7

ヘブライ 2:9

セブンスデー・アドベンチストとして、三天使の使命の文脈において考えるなら、私たちは、主に召し出された現代のイスラエルとして唯一、^{あがな}贖われた者としてではなく、贖いのメッセージを世に伝えるための器として召されたのだと考えたいのです。私たちは、まだだれも言っていない使命を伝えなければならないと信じているのです。この点において、私たちも古代イスラエルと同じ立場にあるのです。イスラエルの選びの目的は、ヘブライ民族を彼らに対する救いと贖いの約束を独り占めにする、排他的な独りよがりの会員制クラブに入れるためではなかったのです。反対に、もし私たちが、キリストは全人類のために死なれたのだと信じるのなら(ヘブ2:9)、主がイスラエルに提供された贖いは、全世界にも提供されねばなりません。イスラエルは、この贖いが世に知らされるための器になるように召されたのです。そして、私たちの教会も同じ目的のために召されたのです。

私たちが召された目的のために、あなたには何ができるでしょうか。

「主は契約を告げ示し、あなたたちが行うべきことを命じられた。それが十戒である。主はそれを二枚の石の板に書き記された」(申4:13)。

私たちがどれほど、契約は常に恵みの契約であることを強調しようとも、恵みは主との救いの関係に入る者たちに無償で与えられる神の厚意であり、恵みは不服従の許可証とはならないのです。逆に、契約〔恵み〕と律法は一つなのです。それらは一体なのです。

問2 上の聖句を見てください。契約と律法は、どれほど強く結びついていますか。律法は契約の基礎であることをどのように示していますか。

あなたが契約とは何かを考えると、律法は契約の一部であると考えたと理解しやすくなるでしょう。契約が他者との関係であると考えれば、二者の間には規約や限界を示す一線が必要となります。結婚や友情などにおいて、暗黙の了解のみで、特に明記された一線や規約がなかったとしたら、どれほど続くでしょうか。夫は他に女性をつくり、友だちは友人の財布から勝手に使い込みます。このような行為はすべて規約違反、法律違反であり、原則を無視したものです。こんな無法状態の下で、互いの関係はどれほど続くでしょうか。ですから、〔社会には〕規約があるのです。

事実、「おきて」(詩78:10、口語訳)、「定め」(同50:16、口語訳)、「あかし」(同25:10、口語訳)、「命令」(同103:18)、そして「あなた〔主〕の言葉」(申33:9、口語訳)といったさまざまな表現は、(そのほとんどが)「契約」という言葉との、密接な関係や対比の中で用いられています。従って、「契約の言葉」(エレ11:3、6、8)との表現は明らかに、神のおきての言葉、定めという言葉、あかしの言葉、そして命令の言葉を意味します。

主の民イスラエルとの神の契約は、主がその民にお望みになった特別な関係を維持するために欠くことのできないさまざまな要求を含んでいたのです。それは今日も同じです。

あなたと緊密な関係にあるだれかを想像してください。その人との間になんの規約も、義務も、法律もなく、まったく自由だったら、その人との関係はどうなるでしょうか。あなたがその人を愛し、愛のみがあなたの行動を決めるとしても、なおそこに規約は必要でしょうか。

ヘブライ語の「トーラー」は、聖書では「律法」と訳されていますが、「教え」、または、「教訓」を意味します。この言葉は、道徳的、公民的、社会的、宗教的によらず、すべての神の教えについて用いることができます。それは、神がその民にお与えになるすべての賢明な勧告を含み、それによって彼らは身体的、靈的に豊かな命を経験するのです。詩編記者はそのような人を、「主の教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人」と呼んでいます（詩1：2）。

私たちが、イスラエルの契約の一部であるモーセの書に記録された教えと教訓を読むとき、それらが実に広範囲に及ぶことに驚きます。その律法は、農耕、民事、社会生活、礼拝など、イスラエルの生活のすべてに触れています。

問3 神はなぜ、こんなに多くの教えをイスラエルに与えられたのでしょうか（申10：13参照）。これらの教えは、彼らにとって、どんな意味で「良いもの」でしたか。

契約に含まれる「律法」の働きは、契約パートナーである人間に、新しい生き方のガイドラインを提供することでした。律法は、神のみ心に対する契約の一部であり、神のご命令と〔人に〕表された神のみ心〔である律法〕に、信仰によって服従するときに、最高の意味において人は神のみ心を知るのです。

生きた実体を伴う契約関係において律法が果たした役割は、イスラエルは他の諸民族の生き方に従うことはできないことを示すことでした。彼らは、自然界の法則、人間の必要、欲望、あるいは社会的、政治的、経済的ニーズのみによって生きることはできないのでした。彼らは、その生活のすべてにおいて、契約をお立てになった神の表されたみ心〔である律法〕に一片の妥協もなく従うことによってのみ、神の聖なる国民、祭司の王国、そして特別な宝であり続けることができたのでした。

古代イスラエルのように、セブンスター・アドベンチストは、現代的に示された預言の賜物を通して、キリスト者の生き方のあらゆる段階（カ）に関わる広範な勧告を受けています。私たちはなぜこれらの勧告を、人間自身の考えや行動を損なうものではなく、神からの賜物と考えるのでしょうか。同時に、かつてのイスラエルのように、それらの賜物を律法主義的なものに変えてしまうような危険があるのでしょうか（ロマ9：32参照）。

問4 契約関係における神の律法の存在は、神の本質的なご性質について、どんな真理を教えてくださいか（マラ3：6、ヤコ1：17）。

神の「律法」は、口で語られ、筆記された神の「みこころ」の表れです（詩40：8〔口語訳〕と比較）。なぜなら、それは神のご品性の写しであり、契約における律法の存在は、私たちに神の永続性と信頼性を確約するものだからです。私たちは、常に見える形で神の摂理を見極めることはできないかもしれませんが、神は信頼できるお方であることを知っています。神が治められる宇宙は変わることはない道徳的、物理的法則の下にあります。私たちに真の自由と安全を与えているというこの事実こそがそれを物語っています。

問5 律法が人を罪から救うことができないとすれば、なぜ神は律法を契約の一部とされたのでしょうか（アモ3：3参照）。

関係は、同意と調和を求めます。なぜなら、神は世界の創造者であるだけでなく、その道徳的統治者でもあり、律法は、主と調和して生きるために主が創造された知的存在にとって、なくてはならないものだからです。このように、律法は神のみ心の表れであり、神の統治の本質なのです。律法は、おのずから神との契約の取り決めとその関係に必要な規範あるいは義務となります。その目的は、救うことではなく、私たちの神への責務（十戒の1～4条）と、私たちの人類同胞に対する責務（十戒の5～10条）を定めることにあります。言葉を変えれば、それは神が、神の契約の子らが幸せで健康に生きるための生き方を示すものなのです。それは、イスラエルが律法の代わりに他の哲学精神によって生きることのないように守るものでした。この契約関係の目的は、昔も今も、神の新生の恵みを通して、信じる者を神のみ心とご品性との調和へと招き入れることなのです。

無法による悲惨な有様を見てください。あなたの人生にも神の律法を破ったために起きた傷跡がありますか。そうした現実を見ることは、神の律法が良いものであること、そしてなぜ律法が神との関係に欠かせないものであるかを理解する助けになりますか。

問6 下の聖句に共通することは何でしょうか。神の契約の性質について何を教えていますか。

創世記 18 : 19

創世記 26 : 4、5

出エジプト記 19 : 5

レビ記 26 : 3

神は、アブラハムが忠実に神の「戒めや命令、掟や教えを守った」ことを公にお認めになりました（創26:5）。それは、神がそのようなライフスタイルを主の契約の人間のパートナーに期待されたことを意味します。聖書のシナイでの契約の全文を読むと、服従は契約の基本事項の一つであったことがわかります。

出エジプト記19:5には、はっきりと、「もしわたしの声に聞き従い／わたしの契約を守るならば」と書かれています。これが契約の条件であることは否定できません。契約は恵みによって、価なしに、賜物として彼らに与えられましたが、その約束は無条件ではありませんでした。民は賜物を拒み、恵みを否定し、約束に背くこともできました。契約は、救いと同様、自由意思を無視しません。主は、人々に神との救いの関係に入ることを強制されません。神は人間に契約を押しつけはしません。神はすべての人に無料で契約を提供されます。だれもがそれを受け入れるように招かれています。人が契約を受け入れるなら義務が伴いますが、それは契約の祝福を得るための手段ではなく、契約の祝福を受け入れたことの表明なのです。イスラエルは従うべきでしたが、それは約束を手に入れるためではなく、約束がイスラエルのうちに成就するためでした。服従は、主によって祝福されるとはどんなことなのかを表現することなのです。服従は祝福を獲得しません。祝福の約束によって、神が彼らを祝福する義務を負うのです。服従は、信仰という祝福を表明する環境をつくり出すのです。

申命記5:33で主は、もし彼らが従うなら、あなたは祝福を手にする権利を得ると言っているのでしょうか。それとも、もし従うなら、神があなたに祝福をもたらす道を開くことになり、結果として祝福されると言っているのでしょうか。両者の違いは何でしょうか。

参考資料として、『各時代の希望』第66章「論争」、『人類のあけぼの』第32章「律法と契約」を読みましよう。

マタイ22：34～40は、①神の契約における律法の位置と意味、②契約と関係は同義語であること、について理解するのに、どのように助けになりますか。「キリストの恵みの力のうちに、キリストの恵みの力によって、人が神の律法の教えを遵守するにあたっては、心のうちにまず愛がなければならぬ（ロマ8：3、4比較）。愛のない服従は役に立たないと同時にありえない。しかし、愛があれば、人は自然に彼の人生を、神の戒めに表された神のみ心に調和させるようになるのである」（『SDA聖書注解』第5巻484ページ、英文）。

「神は聖なる律法の教えの中で、完全な生活の規則を与えておられる。そして神は、この律法は世の終わりまで、一点一画も変えられることなく人間に要求されるものであると宣言された。キリストは律法を大いなるものとし、かつ光栄あるものとするために来られた。律法が神への愛と人への愛という広い土台に基づいていること、そして、人間の義務はすべて律法の教えに従うということに尽きることを、キリストはお教えになった。キリストはご自身の生活において、神の律法に従う模範をお与えになった。山上の垂訓の中で主は、神の律法の要求が、いかに外面的な行為を超えて広く及ぶものであり、心の中の思いや意図を含むものであるかをお示しになった」（『希望への光』1548ページ、『患難から栄光へ』下巻201、202ページ）。

話し合いのための質問

- ① 人間を神へと引き寄せるために、愛の糸はなぜ恐れのリープよりも強い力を発揮するのでしょうか。
- ② 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」（マタイ22：37）との命令は、なぜ第一の、そして最も大いなる戒めなのでしょう。

まとめ

神の律法は、契約において、なくてはならぬ部分でした。しかし、それは真の恵みの契約でした。しかしながら、恵みは律法の必要を無効にはしません。逆に、律法は、恵みを受けた者たちの人生の中に恵みが表されるための手段なのです。